

令和4年度第3回学校教育審議会 議事録

令和5年2月21日15:00～  
市役所北庁舎 A会議室

〔出席委員〕 山下千之 名越和範 藤本直子 西坂千代子 吉田知子 生田均 稲嶋敏彦  
河野有兵 行田佳子 竹部晃 坂田紘理 山名毅 齋尾正人 知久馬和紀

(敬称略)

1 開会	
事務局 教育長 会長	開会 挨拶 挨拶
事務局	出席者および出席人数、会の成立について確認 資料確認 日程および内容の確認
2 報告・説明	
事務局	(報告および説明) 令和4年度倉吉市教育委員会重点施策に基づく実施計画の進捗状況について ・学力向上の推進について ・生徒指導について ・地域と学校の連携について 等
3 協議	
会長	まず、ご質問はいかがでしょうか。 評価については、どういった捉えでしょうか。
教育長	最終的には、教育委員会の中でABC評価をいたします。現在は、自己評価案の段階です。
会長	評価についても、ご意見なり、ご質問なりありましたらお願いします。
委員	学力調査のことですが、全国より、ほとんどの教科、分野で低いと。県内と比較をしても低い方が多いということ、私たちはどう受け止めればよいかということですが。考えられるのは、1つは、全国には、例えば中学受験があり、塾、予備校等に通っている子がおられます。中部はそうではないと。県内で見ると、そういったことはあり、その分差がつくというふうに受け止めればよいのか。それとも、努力が足らなくて頑張らなくてはいけないと捉えないといけないのか。そのあたりをどうお考えか聞きたいです。
教育長	ご指摘のように、塾に通っている子供の割合は少ないと思います。ただ、そのことと思うように結果が出てきていないと結論づけるのはどうかなと考えています。今回、全国平均、県平均を少し下回る結果でしたが、少し前から比べると、少しずつ結果が出てきていました。今年度の結果も、それなりの結果が出るのだろうと期待していました。その結果がそうではなかったということで。ここ数年、結果が出せるようになってきたのは、学校の努力だと思えます。どういう時間を使って、どういうところに補充的な学習を入れるとか、あるいは日々の授業を工夫するとか継続してきているので、ものすごく悪いわけではないと思っています。ほぼ全国平均並みなら、それぞれの学校で取り組んで、もちろん教育委員会も関わっていますし、県教育委員会、中部教育局の力もお借りしながら、分析を進めていますので。日々の授業づくりや、それぞれの学校の力を入れるポイントなど、そういうやりとりを継続していきたいと思っています。
委員	大きく悲観することはないけども、これでいいという風に考えてしまっはいけないということですね。私もそう思っています。結果的に、高校入試だとか、大学入試となると、全県勝負、全国勝負となるわけです。そこのところを、高校と義務教育をつないでいけばよいのかということについて、義務教育は県立高校で

	<p>することとは別だという考え方もあるかもしれませんが、1つのことに同じように課題意識や方向性を見つめて、連携していくかということについて、何らかの動きをしていくのがいいのではないかと思います。与えられた任務というかテリトリーの中で、事を処していくということがあって、仕事は山のようにありますが。何か社会で問題があると、全て学校教育に求めるということがあって、今ものすごく忙しいわけですね。自分の管轄で手一杯というところもあるとは思いますが。新聞記事に高校入試の問題がありました。どうあがいても届かないだろうと、中部全体で考えれば。そういうことについて、どう考えて、何をこれからしていけばよいのか。何か動きをつくっていく必要があるのではないかと思います。</p>
会長	<p>学力向上についての部分では、読むこと、書くこと、話すことということで、中学校の方では、今年、特色入試というのがございましたけど、そのあたりで感じられていることはいかかでしょう。</p>
委員	<p>特色入試につきましては、趣旨は、学校推薦ではなくて、本人が主体的に取り組んで出願するというところで。意欲的に、将来こういうことをやってみたいと希望をもっている生徒が、申し出て、受験をしたという経緯があります。倍率が1倍を超えていますので、不合格になる生徒もいますが、そこに行って頑張りたいという思いで頑張っているという状況です。何が変わったかといえば、今までの推薦入試も、どちらかといえば自分でここに行きたいという思いで受けてくるのですが、学校から推薦するのではなくて、自分で行きたいということで。ある程度の基準はありましたけども、それに達していればどんどん受けるということで、希望者は受験したという経緯があります。</p>
会長	<p>少しずつ受験の中身も変化してきているということで。大学受験も同じように少しずつ変化をしているというところですけど。</p>
委員	<p>私立短大ということで、少し特殊かと思いますが。いわゆる一般の学力もそうですけど、数年前からオープンキャンパス参加型選考ということで、自分が受けたオープンキャンパスの授業をベースに、その学びと本学に入ってから学びをいかに結びつけていくか。意欲をはかるところになるのですけれども。それを希望する受験者数は増えています。一方で、入学した後の学力の向上については、国語力が問題になっていまして。長い文章を読んで理解するという力が、年々弱くなってきているかなど。</p>
会長	<p>小学校の方はいかがでしょう。地域学校委員会では、「どうして勉強しないといけないのか。」といったテーマで話し合っておられるところもあって、私も実際に子供からそういう質問を投げかけられることもあるのですけど。保護者さんの思いと、子供の思いと食い違うところもあるのですが。幼児教育から小学校につながるところも含めて、保護者さんがしっかりする必要もあるのではないかと思います。学校の取組として苦慮されることもあるかなど。学力の面で、読むこと、話すこと、聞くことを含めて。ここは保護者さんと一緒に変わらなければと思うところであるとか、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>園の先生、中学校の先生、あるいは高校、短大、大学さんと、それぞれのお立場からの学力観というのはあると思うのですが、総じて、今求められている学力というのは大きく変わってきていると思います。当然ながら、教育の求めるものというのは、その時代に応じて変化してくるわけですけども、近年、変化の度合いが非常に大きくなったなと思っています。今求められる学力というのを、私たちは、客観的に認識して、ざっくり捉えていても、1コマ1コマの授業に落とし込めないで、分解して実践レベルにしたものを、子供たちに提供していると。けれども、提供していくのは、かつてのように知識に偏重したものではなくて、今ある知識、知を使って、次の知識を生み出していく為にはどうすればいいのか</p>

	<p>などというところを考えると、このところのできる力が知であるという風な捉えに大きく変わってきたと思います。その力は、他でもない、今社会が求める力であって、雇用形態にも現れていると思います。以前のように、入ってしまえばしめたものという考えは、今は通用しなくて、入ってしまっても、それぞれが、それぞれの立場で学びを続けていって、そこで社会に貢献すると。生活の糧を得るとか。仲間と好きなものを創りあげるとか。要は、社会に出てからの学びと学校における学びというのは、相似形を為しているというか。同じづくりをしているというふうに捉えなければ。教育というのは、小出しのトピックスみたいなものをバラバラにとか、面白ければそれでよいとか、メニューをクリアすればそれでよいとか、そういうものになりがちであるけれど。いつもその延長線上に、園の友だちには園の、小学校の子には、その先の、中学校、高校、社会、中学校には、その先の高校、社会と、ずっと同じ形を辿っていく。そういったことを考えると、学習というのは、知を伝授する場というより、基本的には生き方を学ぶ場であるということになると思います。ひとたび学校を飛び出せば、そこにはその学びがある。そこから得る学習の仕方というのは、あまり変わらない。そのイメージにもとづいて行われなければ、学習が無味乾燥なものになってしまうという思いをもっています。</p>
委員	<p>全国平均や県の平均より若干でも下回っている要因のひとつに、1学年1クラスというような小規模の学校が倉吉にはどんどん増えてきていて、子供たちが競争する環境にないのではと思うのですが。私は、統廃合をしていって、子供を競争する環境下においてあげるのが大事ではと思います。そこが、結果に影響していると考えてもよいものではないでしょうか。</p>
事務局	<p>一概には言い切れない部分もありますし、ひょっとするとそこが影響している部分もあるのではないかとこの部分もあると思います。おっしゃるとおり、人数が少なくなればなるほど、子供たちの中で、型にはまった部分が出てきますし、保護者の方で、統合を求められる方というのは、そこをよくおっしゃいます。エレベーター的な感じであがってきてしまって、同じ考えの中でずっと育ってしまい、発展的な部分が弱いであるとか、もっとたくさん的人数になれば、いろいろな考えに触れるのではないかと、競争意識も生まれてくるのではないかと、というようなことをおっしゃられます。</p>
教育長	<p>付け加えです。数年前に分析したことがあります。小規模の学校と、1学年に2学級ある小学校とで、どのくらい違うかと。結論はほとんど変わりませんでした。ただ、あの頃の小規模と今の小規模は違います。一学級十数人であれば教師も子供たちのことをよく見れるし、いろいろ手を入れることができます。ただ逆に、手を入れすぎると、子供の自主性を伸ばすことを止めてしまうということもあります。その小規模が、さらに小規模になって、一学級に数人しかいないところでは、多様な考えに触れることができないと思いますし、話し合い活動にも不十分さが出てきて、メリットよりデメリットのほうが大きいと捉えるべきであろうと思います。</p>
委員	<p>もう一つ質問です。今の教育の目標は、いわゆる受験勉強と言われた時代の勉強の仕方、方向性とは、かなり異なっているということですね。今回の学力調査というのは、どの方向を向いているテストなのでしょう。新しい教育観や学力観にもとづいたテストで、結果がよくないのであれば、やはり考えないといけないのではと。</p>
教育長	<p>新しい学力観にもとづくものです。特に、とっとり学力・学習状況調査は、伸びを見るものであり、そこが良くないというのはいけないと考えています。各学校へ訪問に行き、各学校でも分析するよう伝えていきます。今年度、文部科学省の教育アドバイザーが倉吉に入ってください、専門的な分析をしつつあります。その</p>

	分析によって、例えば子供たちに力をつけるための学級の作り方であるとか、仲間作りや、あるいは授業の作り方であるとか、いろいろなところに視点をもちながら分析中です。今後、こういうところに頑張れば力がつくというものを示していきたいと思っています。
委員	参考になればということでお話をさせていただきます。全国学力・学習状況調査ですが、国がつくっている調査になりますので、学習指導要領にもとづいて作問をしているものです。今求めている学力の方向に合致しています。とっとり学力・学習状況調査については、問題ごとに難易度設定がしてあって、去年より難しい問題がクリアできるようになっているかというところで、学力の伸びを個別に見ていくテストになります。学級サイズについては、小さくなると、その子の個性によって結果の幅がふれることがあります。例えば、5人の学級で、5人がたまたまよくできた場合、高くなりますし、なかなかそうじゃない子がいた場合、低くなる場合があります。学校として、ずっといい結果が出ていれば、学校の進め方が学級サイズにフィットしているというような考え方で。一概に大きいからとか小さいからということではなく、なかなか難しいですけど、感覚的にはある程度切磋琢磨する環境がいいのかなという事は思っています。
会長	保護者のみなさんはいかがでしょう。コロナ禍でPTA、学校と話すことがあまりなかったと思います。今、こういう風に学校が変わりつつあるということで、学力観も変わってきているのですが、何かご意見、感想等ありましたら。
委員	おそらくこの3年間で、教育の考え方も大きく変わったのではないかと考えていて、どちらかというと、命だったり、生徒を守るというふうな、シフトした3年間だったのではないかと思います。この苦労というのは、先生方、教育委員会も大変だったと思います。春から、その様子が大きく変わろうとしていますから。この3年間で、学校に対する興味、関係性が薄れてきていたような気がしますし、入っていきたくても入っていけないという現状がありました。それが大きく変わって、学校本来の交流だったり、子供たちへの享受だったり、そういったものが復活して、倉吉市教育委員会の施策によって、結果が出ていけばよいなと思っています。その上で、読む力が下がっているという話を聞いて、自分は、学生時代に、基本は国語だと聞いてきました。それは、読み解く力がないと、数学でも理科でも問題が解けないよと言われて。小学校の頃を思い返すと、図書館に通いましたし、タブレットだとかSNSなどありませんでしたし、本当によく本を読んできたなと思います。その中で、MIM研修会というのは、いい取組をされているなど思い、続けていただきたいです。質問ですが、今、本を読む機会というのは、どのくらいあるのかなと。機会を増やしてあげてほしいと思います。相手の立場に立つ力もつきますし、今、知識が豊富でも考える力は落ちているのではないかと思います。
事務局	各学校が、工夫、苦勞されながら取り組んでおられます。統合で図書館が使えない学校もありますが、各教室に本を置かれたりだとか、電子書籍を導入されたり。読書を止めないという取組をしておられます。市立図書館での数値では、あまり増えていないというか、若干減っている方だろうと思います。ただ、紙の本ではなく、タブレットを使って読んでいる子もいるのかなと、想像ではありますが、思うところはあります。統計的なところはとれていませんので、増加についてはつかみかねているところはあります。
教育長	具体的な国語の取組ですけど、物語の学習ですけど、その作家の書籍を同時に読んでいくとか、図書館にコーナーをつくってもらおうとか、そういう取組は、特に小学校では丁寧に行われています。数字の上では、図書館の本の貸し出し数が多いのは小学校です。中学校も忙しいので、それでどうこうということではありませんが。学校の図書館はかなりの子が活用しているという実感はあります。そ

	れと、近年の学力観に関わる小学校の取組ですが、一つの単元、物語を勉強したときに、その単元のまとめとして、動画をつくります。登場人物の心情を考えるやりとりを何回もした上で、最後自分たちが動画をつくるのです。感心した取組で、紹介します。
会長	音読を家庭でしっかり聞いていただきたいなと思います。音読をすることで、大人でも中身が入ってきますし、声に出して読むと、間違っていたところも分かるし、音読の大切さというのを実感します。いかがでしょうか。お家に帰ってからのお子様の勉強は。「知」を習って、先ほどの動画をつくるのか、ものをつくるのかというところに発展していますけど。私たち保護者の側も学ばないといけないなと思いつつながら。
委員	小学校ですけど、音読を毎日しています。国語だけでなく、社会を読んでもるように言われたり、理科だったり。いろいろありますが、聞いています。タブレットは、最初自分の中では、書く機会が減るから、あまり賛成ではなかったですが、つながるツールとして考えると、必要なのかなと。読み聞かせもさせてもらっているんで、本には触れてほしいという思いがあります。ただ、タブレットも必要なのかなとも思います。親として、子供は話したいので、聞かないといけないけど、音読は聞くということと、自学(自主学習)は学力によってまちまちなので。この前地域学校委員会に参加したら、自学ノートが全部並んでいて、良いなと思いました。子供たちが見て、まねもできる。字を書く宿題も良いなと、ただ、タブレットも普及していくのだろうなと。
委員	読書の話がありましたが、小学生の子は、本を借りて帰ってきていますし、音読の宿題もやっています。中学生の方は本に触れる機会はないです。GIGAスクールで、ノートPCを貸し出してもらって、次の日の時間割をそういったもので確認するようになっていきますので、自分の頃よりは書く機会は減ったなと思います。小学生の子は日記があります。中学生にはないです。でも、私が書くようにと書かせています。時代だなと感じることもありますし、良くなっているなと感じることもあります。
会長	乳幼児の方ではいかがでしょう。
委員	読む力ということ、読書量であるとか、触れる機会が増えることも必要だと思いますし、それを読んで本人たちがどう思ったかを確認してあげる機会が必要なのではと思います。何冊読んだかも評価の対象だと思いますが、それをどう理解しているのかというところを、大人が確認してあげる機会というのが必要なのではと思っています。
会長	地域の方もいらっしゃっているので、子供たちの学力観が変わっていく中で、地域でどのように育てていくのか。大人とともに育つ環境をどうつくっていくのかというところを、これから考えていかないといけないと思うのですが。地域学校委員会の資料の中にも次世代を育成するということが課題としてあげられていましたが。
委員	地区のコミュニティセンターが13あります。先日、地域学校委員会に入らせていただいて、学校の方では、地域の方にボランティア活動というところで積極的に出ていこうということによっておられます。そうはいつでも、地域の受け皿が、コロナ禍の中でなかなかうまくいっていない。そんな状況ですが、学校では計画をして、例えばクリーン活動の計画を立てられて、子供たちが中心となって、地域に入ってくるようなものがあるとお聞きしました。そういったことを各地区にあるコミュニティセンターと連携をとっていただきながら、関わらせていただくということで、子供たちが地域で活躍する場を確保できたらと思っています。 1点、気になることで、不登校の生徒児童が年々増えていることです。コロナの

	影響もあるのでしょうか、原因については多種多様と思いますが、学校と家庭の方での連携等していただいたり、努力していただいていると思いますが、小学校の後半から中学にかけて、不登校になる子供たち。今タブレットもありますから、手厚く指導もしていただいていると思いますが、その子たちの学力はどうなっているかお聞きしたいです。また、高校への進学についての状況はどうなっているのか。
教育長	不登校あるいは不登校傾向の子の学力については、ものすごく高い子もいます。普通の子も、あまりそうではない子もいて、一律には言えないと思います。一人で勉強する子もいますし、中部子ども支援センターで勉強するという方法が取れる子もいますし。支援センターですが、中学3年生の子が毎年10人弱ぐらいは通います。ここ数年間、支援センターに通った中学生は、全員いずれかのところに進学しています。すごいことだと思っています。高校の方も、中学校時代に不登校、不登校傾向であれば、今自己申告書というものを書くことができます。現場にいた時の感覚ですが、本人が書いた自己申告書をかなり重視していただいている印象です。つまり、自己申告書を添えて受験をした子はほぼ合格しています。入った後は、本人が来ないと、進級など認められませんから、それはそれで、高校年齢の発達段階に合うのではと思っています。
会長	不登校に関しては、いろいろな背景があって、慎重な分析が求められるかなと思います。ただ、教育機会確保法という法律ができて、不登校でなかなか学力がつけられなかった子供たちも、これから夜間中学もできますし、非識字率について、国の方も調査をしていますし。そういうところも減らしていく施策を考えておられるのかなと。ただ、子供たちの進路というのは、背景にある家族全員に大きな影響のあることですし、その辺は学力をつけて進路を保証していくことが必要だと思います。 学力をつけるということで、学校外でも支えとか受け皿が必要と思いますが。
委員	受け皿ということではないのですが、気になることが一つあって。本当にこの仕事で人数が足りているのかと。普通の会社だと、人手不足が深刻で。成果を出したいけど、働き方改革もあって。先生方が、今たつぷりと子供たちと向き合えるのかなと心配になってしまって。もっと人数を増やして、学校の中に人材があると安心だなと。
委員	関金に自然学校がありますけれど、とても生き生きと子供たちが目を輝かせていました。不登校ということで、どうして、子供たちがその場所に居づらいのかと考えると、今の学校のあり方にも関わってきますので、今すぐ変えることはできないと思うのですけれども。子供はどうして居づらいのか、どうすれば生き生きと目を輝かせて出て来られるのか。例えば、生まれた年が同じだから、全員と仲良くしなさいと、競いなさいと突然言われても、厳しいものがあると思います。テストの穴埋めをできる力と、コミュニケーション能力と、どちらが社会に出てから必要かと考えると、学力はある程度必要ですが、やはりコミュニケーション能力が必要になってくると思います。そういったところで、支援センターは大きな役割を果たされていると思います。学力、人と関わること、そういうところを少しずつ、学校のあり方から変えていくところも必要なのかなと思います。
委員	地域への受け皿ということで、河北ですが、見守りボランティアという取組を2学期からスタートさせました。きっかけは、河北小学校の通学路は179号線沿いに散らばってしまっていて、交通量が多いことと、不審者も出やすい環境があると。よくないところですが、地域学校委員会なら地域学校委員会だけで活動してしまっています。活動の成果や困り事をまわりに伝えていかない。みんな横につながって活動していこうと、この一つとしても見守るボランティアをしている。安全を守るために、黄色いビブスをつけて、スタート時は13人でしたが、今2

	2人まで増えました。良かったと思うのは、子供たちと「おかえり」「こんにちは」という挨拶ができるようになってきています。子供から元気がもらえるという話もありました。結果的にも、子供たちが、地域の人たちが見ているんだなと思ってきているのかなというところを感じています。いつも誰かが見守れる体制を目指して、継続していきたいと思っています。
会長	子供たちと大人の関係もお互い様だと思っていますので、双方向で見守り合いというようなことを先進的に取り組んでおられるところにお聞きになるのもいいかなと。 質問です。これから、中学校部活動の地域移行について、どう考えておられるのかお聞きしたいと思っています。
教育長	スポーツ庁が向こう3年のうちに、地域移行といわれていましたが、できる所からという方向になり、現在のところは、平日の部活動は今までどおりです。土日について、ガイドラインに沿って、どちらかの練習を、例えば、学校の枠をといて合同練習を行うような、土日に指導できる先生でローテーションを組んでいくことができないかと考えています。これは倉吉だけでできないので、中部はまわりの4町とも集まって思案しており、まだ結論は出ていませんが、今年度中に、倉吉市内の先生にも全員アンケートをお届けして、土日の指導ができるかどうかご意向を聞くというのをやってみよう。そうすると、全ての種目ではできません。例えば、陸上であれば、小学生、中学生、高校生関係なく、陸上競技場で、いい具合に練習させてもらっています。種目毎に、合同練習ができる可能性があるとか難しいとか、見極めをしながら、5年の4月には、仕分けをしながら試みしてみるのではないかとこのところではあります。
会長	文化活動についてはどうでしょうか。
教育長	吹奏楽部、家庭科部など、運動部が地域へ移行していくということになれば、文化部も移行することになっていくと思います。ただ、例えば、楽器をどうするか、方法が難しく、細かな問題も出てきます。
会長	専門的に必要なものもありますが、例えば家庭科であるとか技術であるとか、運動や文化活動が苦手でも、他のことで地域の中に受け皿ができればいいなと思います。
教育長	もうひとつ付け加えて、今は原則いずれかの部活動に加入することになっていますが、遅くとも5年度中には、全員加入がなくなると思います。部活動に入らない子は、地域のいずれかの活動に出かけていく、ボランティアをすることなどももちろんあります。そういうことにだんだんなっていくのだろうと思います。
会長	そういうことになると、地域の理解が必要なことと、保護者の皆さんが、子供たちを出すときに、教えていただく時に、何か事故があった時にどうするか、そういった時に、教えていただく人との関係性を摺り合わせていくことが大切のかなと思います。ただ、子供たちにはたくさんの選択肢を与えて、自分が活動できる場をつくってほしいというのが願いです。 この4月からこども基本法が施行になります。子供の意見を聞くということが、子供の権利条約の中で求められており、子供が社会参加をするとか、意見を聞くという部分では、日本は遅れていたなど。こども家庭庁も発足するわけですが、子供の意見を聞くということを重視されて取り組まれつつあります。 子供が率直に自分の意見を言える場というのを、提供していかないといけないですし、吸い上げていく必要があるかなと思っています。この学校計画の基本施策においても、子供がどういうふうを考えているのかということも含めて、反映されるべきかと思っていますし、各学校でも、意見を言いやすいとか、お互いを尊重しあう環境づくりをお願いしたいと思っています。
委員	冒頭に学力について質問をさせていただいて、いろいろ分かった点がありまし

	<p>た。</p> <p>自分が思っていることですが、日本の学力は落ちたと、OECDのPISA学力調査で言われますが、順位的には落ちています、得点的にはそんなに落ちていません。そして、あまり知られていないことですが、大人の学力は世界一です。義務教育の力はすごいものだと思います。義務教育で習ったことが、かなり入っていたら、立派な大人としてやっていけるはず。高等教育までいかななくても。いかに、日本の義務教育の力がすごいものなのかと、自信をもっていいと思います。</p> <p>学校で職員会議を定期的に関くときに、課題について考えるときは、いろいろ意見が出ますが、もっとも時間をとるのは、例えば、避難訓練を行うために、時間をカットしなければならない。そうすると、6時間目をカットする、5分間ずつとか、昼休憩をカットするとか、様々な意見が出て盛り上がります。しかし、自分のところをどういう学校にしていましようかとなると。しんとなくなってしまいます。</p> <p>つまり、わたしたち日本の弱いところは、目標をつくるのが苦手で、目標が決まったら頑張れるというか。どうやったらそれを達成できるかというところは、すごく能力があると。ルールづくりや目標づくりは苦手なところがあるのでは。ですから、国から「これからの教育はこうですよ」となると、県の教育委員会、そして、学校、教職員と伝わり、それから考えるというスタイルが多いのです。</p> <p>自分たちの学校はどういう教育をするんだということを、学校あるいはPTA、地域も含めて決めて、教科指導や生活指導の具体的な方向を考えていくというスタイルにするのがなかなか難しく。公的な教育機関では、人事異動がありますから、毎年新しい人がくると、だんだん薄れてきてしまう。上が決めてください、私たちは手足としてということではなく、自分たちで決めたのなら頑張れるという姿勢にしていかないと感じてきました。国や世界がどうなっているか考えることはもちろん大事ですが、教職員ひとりひとりの考え方がそうになっていくといいなと思ってきました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>意見を言い合って、そこの中で合意形成をして進むべき道を決めていくという作業を。それは小学校でも中学校でもやっていかないといけないことというか。子供たちにも、そういう機会を与えながら、繰り返し少しずつ進み、みんなで決めたことだからやろうということをしていかないといけないだろうと思います。</p> <p>子供たちも表だって争うことをしません。ぶつかり合うことも時には必要だと思いますが、それを避けているようにも感じています。実は、大人がそういう姿を見せているのではないかと。コミュニケーションをどうやってとっていくのか、お互いが意見を言い合うという場面を、そして、受け止めるという環境をつくっていくことが重要な課題かなと思って聞かせていただきました。</p> <p>みなさんの方から他に何かありますでしょうか。</p> <p>なければ時間になりましたので。</p> <p>それでは、協議を終了させていただきます。</p>
<p>閉会</p>	